



公益財団法人
ダスキン愛の輪基金

2016年度(第36期)
事業報告書



愛の輪運動は障がい者の自立と社会との共生を応援しています。

感謝を込めて…

合掌

1981年、「めい あい へるぶ ゆう」(なにかお手伝いできることはありませんか)との精神で開始した愛の輪運動。

ミスタードーナツ創業10年の年、国際連合の「国際障害者年」に因んで、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣事業」として開始以来、今年で36年目を迎えます。今日まで多くの皆さまのご支援ご賛同をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

2016年7月には、愛の輪を支えてくださる多くの方々にお越しいただき、「財団設立35周年記念ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業成果発表会」を開催しました。当日は、秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下にご臨席賜り、発表後の研修生に激励のお言葉を手話も交え、お声を掛けていただきました。

現在、「ダスキン愛の輪基金」は、大きく2つの事業を実施しています。

財団設立当初から実施しております地域社会のリーダーとして貢献したい、と願う障がいのある若者を海外に研修派遣する事業。36年間で496名が研修を修了し、帰国後はその貴重な体験を活かし、大学教授や弁護士、自立生活センターの運営、パラリンピック選手など様々な分野で活躍されています。

そして、1999年より実施しているアジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、障がい者福祉を学んでいただく事業です。18年間で127名の研修生が学び、母国で障がい者福祉のリーダーとして活躍されています。

これらの活動は、会員さまからの会費、ミスタードーナツ店舗などでの募金、多くの方々からの献金と、研修生を受け入れていただく関係機関を含めた皆さま方からの研修生への温かい励ましなど、物心両面での支えがあって、続けることができました。

これからも公益財団としての社会的責任を果たし、「愛の輪の活動」をより多くの方達に知っていただくことに取り組むとともに、全ての人が心豊かに暮らせる社会づくりのお手伝いを続けてまいります。

今後共、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。 合掌

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

理事長 山村輝治



ダスキン障害者リーダー育成 海外研修派遣事業



ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された国際障害者年を契機に、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足。この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に海外で研修していただくもので、障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、国内外に広く知られています。

研修派遣生の 構成 (496名)

地域別(応募時)	
北海道	9名
東北	28名
北関東	53名
南関東	55名
東京	115名
東海	48名
北陸	13名
近畿	100名
中国	20名
四国	15名
九州	40名

性別	
男性	225名
女性	271名

障がい種別	
知的障がい	77名
視覚障がい	105名
聴覚障がい	98名
盲ろう	2名
肢体不自由	192名
てんかん	10名
内部障がい	8名
精神障がい	3名
発達障がい	1名

海外派遣先別

アメリカ	388名
イギリス	24名
スウェーデン	15名
オーストラリア	12名
ニュージーランド	11名
ドイツ	11名
カナダ	9名
フィジー	8名
フィンランド	5名
イタリア	4名
ノルウェー	3名
デンマーク	3名
フランス	1名
フィリピン	1名
ロシア	1名

世界一幸福な国「デンマーク」で 福祉制度、介護のあり方などについて学びました。

世界一幸福な国であり福祉大国でもあるデンマークで、「障がい者が幸せに生きる方法」を勉強しました。授業はスポーツから性教育、アートまでさまざま。障がいの有無を問わず全員が同じ授業を受けることで、助け合い、お互いへの理解を深めることができました。障がいのある学生の補助は障がいのない学生がヘルパーとして行いますが、これは無資格でもヘルパーになれるデンマークならではの制度。ヘルパーをしている学生には自治体から給与が支払われます。また、中東を訪問したり、同国の小中一貫校を見学したり、自立生活を

送る重度障がい者の方にインタビューを行ったりしました。はじめの半年間で、幸福度が高いデンマークの国民性を肌で感じました。障がいの有無を問わず、デンマークは「生きやすい」国です。それは福祉政策だけでなく、教育制度やワークライフバランスの整った働き方といった根幹の部分がしっかりしているから。国民一人ひとりが「心地よい社会とは何か」「豊かな人生とは何か」を考えており、国の政策に反映されています。研修後半は、デンマーク人へのインタビューを積極的に行い、社会福祉制度をより深く学びました。



個人研修生

高橋 菜美子さん
(肢体不自由)

【研修先】デンマーク: Egmont Hojskolen
【研修期間】2017年1月～2017年12月(予定)
【研修テーマ】障がい者の生き方のさらなる多様化に向けた当事者の心のあり方と社会支援策について



障がい者の権利擁護運動に参加したことで、 より一層障がい者支援に励んでいこうと決意。

アメリカ・シカゴにある自立生活センターにおいて、障がい者の生き方の多様性を模索しながら研修に励みました。

今回の研修でシカゴを訪れるまで、アメリカでは、当然のごとく障がい者が自立生活を行っているものと思っていたのですが、現実はそのようではありませんでした。とりわけ、重度障がい者の大半が、いまだに養護施設や親元での生活を余儀なくされています。さらに、アメリカの現政権はMedicaid（障がい者の生活を支えている保険制度）の予算を削減しようとしており、もし予算が削減された場合、地域で一人

暮らしをしている障がい者が、養護施設へ戻らなければならないという状況になりかねません。

ADAPTと呼ばれる障がい当事者グループがMedicaidの予算削減に反発し、障がい者の権利および生活を守るために、全米規模の権利擁護運動を展開。ワシントンD.C.で行われていたので、私も参加しました。道路上に座り込み、警察に逮捕されるまで声を上げ続けるADAPTのパワーに圧倒されると同時に、「自分も障がいを持っている人のために全身全霊を尽くせるような人間になりたい」と強く感じた経験でした。



個人研修生

大藪 光俊さん
(肢体不自由)

【研修先】アメリカ: Access Living
【研修期間】2017年4月~9月(予定)
【研修テーマ】アメリカにおける重度肢体不自由者の社会参加および社会貢献について学ぶ



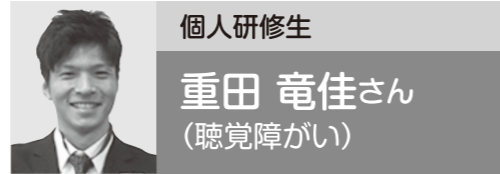
多民族国家アメリカと日本を比較し、 社会で発生している問題の解決策を探る。

まず、差別という現象はなぜ発生するのでしょうか。人種・性別・言語などの特性によって差異が生じる中で、差異が差別の根拠となるのでしょうか。差別から人々を解放して差異を肯定する社会を目指すなら、基本的な権利をどのように保障していくかという問題に突きあたると私は考えます。言い換えれば、「すべての人々が快適に暮らせる社会をどのように設計するか」という永遠のテーマに向きあうということです。

私はこのテーマを研究するために、多民族国家であり日本とは異なる差別禁止アプローチをとってい

るアメリカを研修国として選び、「差別と不平等の発生メカニズムと公共政策のあり方に関する研究」を研修テーマに設定。教育政策と社会政策の実態・事例の研究を目的に、特殊教育に関する教育機関で研修を受けました。そこでは、アメリカ全体の教育分野を含む公共政策の実態・問題・課題の把握と事例研究を行いました。

日本とアメリカは制度や文化などが異なるため、両国の特性を勘案することが必要。帰国後は、研修で得た知識・経験を活用して冒頭のテーマの研究を進めつつ、施策・提言の推進を目指していきます。



個人研修生

重田 竜佳さん
(聴覚障がい)

【研修先】アメリカ: Ohlone College
Santa Clara County Office of Education
【研修期間】2017年1月~2018年1月(予定)
【研修テーマ】カリフォルニア州における教育政策および文化政策、社会政策の実態把握と事例研究



ジュニアリーダー育成グループ研修 視覚障がい者ユースプログラム

今年度は、4名の高校生を10日間イギリスに派遣。
「イギリス文化と視覚障がい者のアクセシビリティ」
を学ぶ研修を行いました。

菅田 利佳さん



音楽教師のサリー・ジンマーマン先生と、視覚障がいのあるヴァイオリストの菊池崇さんから貴重なお話を聞きました。中でも、ジンマーマン先生の「視覚障がい者にとって、楽譜を手に入れたり、コンサートを企画したりする面ではさまざまな困難もあるけれど、音楽を奏でることに障害はない」という言葉や、菊池崇さんの「つねに人から見られていることを意識しておくことが大切」という言葉が、とても印象に残っています。

国際的に活躍されている視覚障がい者の方などの言葉は、私に目標に向かう力を与えてくれました。



横山 政輝さん



博物館などでのバリアフリーについて学びたいということが、研修の目的の1つにありました。今回は、国立炭坑博物館など3カ所の博物館を見学。日本の博物館では展示物に触れることはできません

が、今回行った博物館では多くの展示物に触れることができたので良かったと思います。大英博物館やヴィクトリア&アルバートミュージアムでは博物館を巡り、展示物を見たり触れたりする「タッチツアー」に参加しました。日本の博物館でも、もっと積極的にタッチツアーを行ってほしいものです。



今岡 称さん



10日間の研修は、毎日が発見や出会いの連続でした。異文化交流パーティーや、クライミング、カヌー、芸術鑑賞、ホームステイなど、さまざまなことを体験。また、支援者の方や、芸術・スポーツ・福祉などの分野で活躍されている障がい者の方々のお話を聞きました。どの方のお話

も初めて知ることばかりでとても興味深かったです。今回の研修を通して、私は障がい者は弱者ではないと感じました。これからの生き方次第で私たちも誰かを支えられる存在になることができる、そのようなことに気づかせてくれた本当に素晴らしい研修でした。



青木 悠弥さん



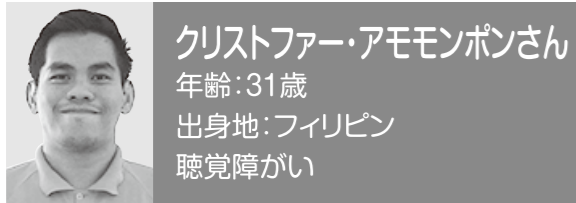
もともと英語への苦手意識があった私ですが、研修を通して克服につながれば良いと期待していました。この研修で強く印象に残っていることはホームステイ体験です。ホームステイ先のホストファミリーの方は、私たちに

とても良くしてくれました。拙い英語ですが、じっくりとコミュニケーションをとれたことで、「もっと上手に英語が話せるようになりたい」という気持ちが強くなりました。10日間という短い期間でしたが、たくさんのきっかけやご縁をいただき、私にとって大きな財産になったと考えています。



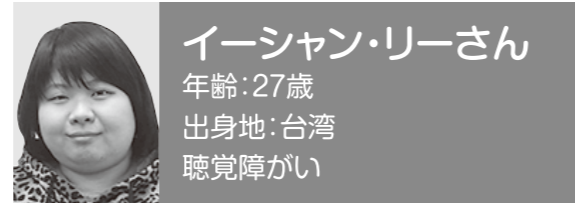
1999年の発足より18年目を迎えた、 アジア太平洋地域からの研修生招へい事業。

アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、各地の機関・施設で障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただく人材育成事業です。応募者256名の中から選出された第18期の6名は、2016年9月12日にダスキン本社で開催された開講式の後、それぞれが約10ヵ月の研修に臨みました。



クリストファー・アモモンポンさん
年齢:31歳
出身地:フィリピン
聴覚障がい

ろう者の擁護者である両親の影響を受けて、障がい者支援に興味を持つようになったクリストファーさん。母国では、ラブラブ市ろう協会などの団体に所属し活動。日本では、行政交渉や団体運営、日本のろう者の生活、ろう教育(特に書記言語の指導方法)について学び、母国での活動に活かしたいとのこと。帰国後は、全国規模の団体と地域のろう協会のネットワークを強化し、1つの運動体として機能するように組織改革を行うことが目標。その他にもさまざまな活動を視野に入れています。



イーシャン・リーさん
年齢:27歳
出身地:台湾
聴覚障がい

イーシャンさんは、母国で中華民国ろう者協会に所属。ろう者の支援や、より良い福祉法および平等な雇用の探求などを行っています。今回の研修では、日本のろう者・難聴者の就労についてや、自分とは異なる障がいのある人とのコミュニケーション、また、ともに活動していく方法を学び模索しました。帰国後は、聴覚に障がいのある人と聴者との架け橋のような存在になり、両者の相互理解を促進し、聴覚に障がいのある人の社会的バリアを解消するための活動に励んでいきたいそうです。



中央・西アジア 7名
●カザフスタン 2名
●タジキスタン 2名
●キルギス 1名
●アフガニスタン 1名
●ウズベキスタン 1名

東アジア 23名
●韓国 6名
●台湾 8名
●モンゴル 5名
●中国 4名

南アジア 36名
●ネパール 10名
●パキスタン 8名
●バングラデシュ 6名
●スリランカ 5名
●インド 5名
●モルディブ 2名

東南アジア 55名
●ベトナム 8名
●フィリピン 10名
●インドネシア 7名
●カンボジア 7名
●マレーシア 6名
●ミャンマー 5名
●タイ 5名
●ラオス 5名
●シンガポール 2名

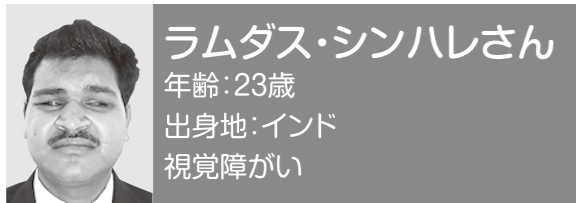


第18期生 日本での主なスケジュール

- 2016年9月……………開講式
日本語(日本手話)研修
- 2016年12月……………日本語・日本手話成果発表
グループ研修
- 2017年1月……………ホームステイ
グループ研修
- 2017年2月……………個別研修(～5月)
グループ研修(5月～6月)
- 2017年6月……………成果発表会・修了式

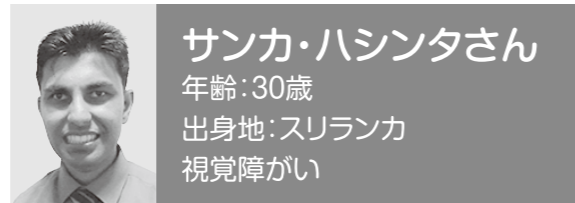
**現在までに
27の国と地域から
127名が参加**

オセアニア 6名
●パプアニューギニア 1名
●フィジー 4名
●ソロモン 1名



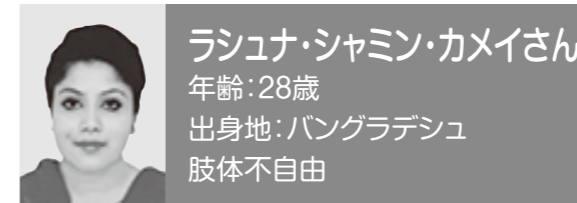
ラムダス・シンハさん
年齢:23歳
出身地:インド
視覚障がい

ラムダスさんは、在学中より障がい者運動に参加。デリー視覚障害者救援協会のメンバーとして活動。今回の研修目標は、障がい者の社会へのインクルーシブや、言語・文化・社会・ライフスタイル・福祉政策・障がい者へのサービスなどについて学ぶことと、コンピュータースキルを向上すること。帰国後は、地方都市に暮らす障がい者の課題を解決するために活動したり、地方都市のバリアフリーを改善することを目指します。また、インドにさまざまなスポーツを紹介する活動も行っていきたいそうです。



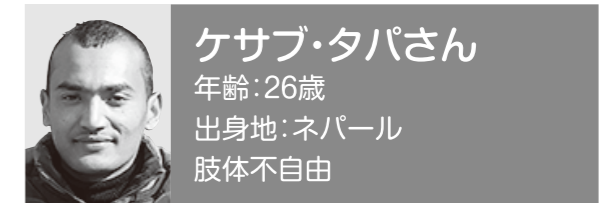
サンカ・ハシタさん
年齢:30歳
出身地:スリランカ
視覚障がい

コロンボ大学の障害学生サポートセンターで障がい学生の支援を行っているサンカさん。その他にも、ボランティアでさまざまなワークショップを開催。日本では、教育施設での管理運営・マネジメントや、インクルーシブ教育、障がいのある人の自立生活スキル、ピアカウンセリングなどを学び、帰国後はその経験を活かして視覚障がい者の教育のためにリサーチを行ったり、日本のバリアフリーを紹介するワークショップを開催したり、戦争により障がいを負った人たちの支援を行うなどの活動を目標としています。



ラシュナ・シャミン・カメイさん
年齢:28歳
出身地:バングラデシュ
肢体不自由

現在、製菓関連企業にて生産・品質管理担当として働きながら、「障害者の夢」という団体に所属し、障がい者の生活状況の改善を目指す活動を行っている、ラシュナさん。「社会的なバリアを取り除き、障がいのある人が自らの力を発揮できる社会をつくりたい」「女性障がい者が置かれている差別的な状況を変えたい」、そんな想いから今回の研修に参加。目標を叶えるために、日本では、障がい者のエンパワメントや障がい者のリーダーシップを向上させる方策、女性障がい者の活動について学びました。



ケサブ・タパさん
年齢:26歳
出身地:ネパール
肢体不自由

帰国後は、学業に復帰予定のケサブさん。大学でビジネスを専攻するかたわら、脊髄損傷ネパールネットワークのメンバーとしても活動。日本では、障がい者運動の歴史や脊髄損傷者のリハビリテーション、コンピューターのウェブデザインなどについて研修。帰国後は、バリアフリーの推進、障害者年金と福祉サービス、脊髄損傷者のリハビリテーション、障がいのある人の自立生活について、母国で所属団体の仲間とともに運動を展開したり、ネパール政府へ交渉を行ったりということを考えています。



全国各地で活発な愛の輪地域活動が行われ、 ご理解とご支援の輪がさらに広がりました。

ミスタードーナツ

第37回フレンドシップフェスティバル 愛の輪タイムで研修派遣生が講演

ミスタードーナツで働く方々が日々の技術やサービスを競う「ミスタードーナツフレンドシップフェスティバル」各地域大会の愛の輪タイムで、研修派遣生が講演を行いました。



北海道地域大会 (北海道)	第34期研修派遣生 執印 優莉亜さん
東北地域大会 (宮城県)	第28期研修派遣生 松本 由美さん
北関東地域大会 (長野県)	第26期研修派遣生 広瀬 芽里さん
東京地域大会 (千葉県)	第27期研修派遣生 広瀬 有紀さん
神奈川地域大会 (神奈川県)	第35期研修派遣生 吉田 祐太さん
北陸地域大会 (富山県)	第29期研修派遣生 廣川 麻子さん
東海地域大会 (静岡県)	悪天候のため参加できませんでした
近畿地域大会 (兵庫県)	第33期研修派遣生 山本 真記子さん
中四国地域大会 (岡山県)	第34期研修派遣生 藤原 なるみさん
九州地域大会 (大分県)	第35期研修派遣生 東川 結さん

ダスキン感謝のつどい

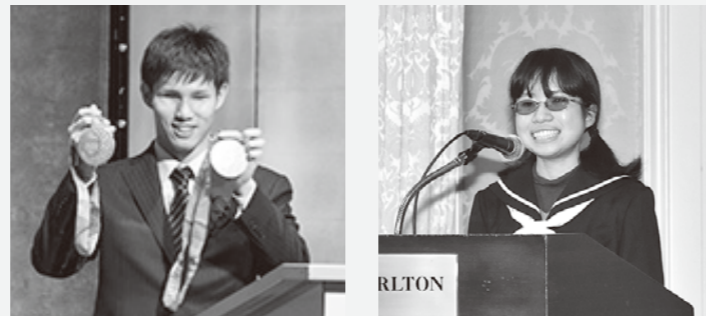
愛の輪タイムで研修派遣生が講演

全国各地で開催された「ダスキン感謝のつどい」にて、愛の輪の研修派遣生が講演を行いました。参加された研修生と会場は別表のとおりです。



大阪会場 (大阪府)	第33期研修派遣生 山本 真記子さん
宇部会場 (山口県)	第16期研修派遣生 児玉 良介さん
札幌会場 (北海道)	第34期研修派遣生 蔵本 紗希さん
北上会場 (岩手県)	第31期研修派遣生 石田 由香理さん
金沢会場 (石川県)	第31期研修派遣生 石田 由香理さん
東京会場 (東京都)	第34期研修派遣生 川端 舞さん
岐阜会場 (岐阜県)	第32期研修派遣生 小森 智子さん
松山会場 (愛媛県)	第35期研修派遣生 北原 新之助さん
長崎会場 (長崎県)	第29期研修派遣生 大山 歩美さん

ダスキン新春のつどい



全国各地域で研修派遣生が講演

- 【東北地域】 1月10日、仙台 勝山館にて第22期研修派遣生・木島英登さんが講演。
- 【近畿地域】 1月10日、リッツカールトンホテル大阪にて第36期研修派遣生・菅田利佳さんが講演。
- 【北陸地域】 1月11日、加賀山城温泉 ゆのくに天祥にて第18期研修派遣生・今村彩子さんが講演。
- 【南関東地域】 1月12日、ヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテルにて第30期研修派遣生・木村敬一さんが講演。
- 【中国・四国地域】 1月12日、下関グランドホテルにて第34期研修派遣生・蔵本紗希さんが講演。
- 【東京地域】 1月13日、ホテル椿山荘東京にて第29期研修派遣生・高田朋枝さんが講演。
- 【九州地域】 1月13日、ANAクラウンプラザホテル熊本にて第18期研修派遣生・今村彩子さんが講演。
- 【東海地域】 1月14日、ヒルトン名古屋にて第22期研修派遣生・木島英登さんが講演。

正味財産増減計算書・ 貸借対照表・財産目録 収入・支出 会員数の推移

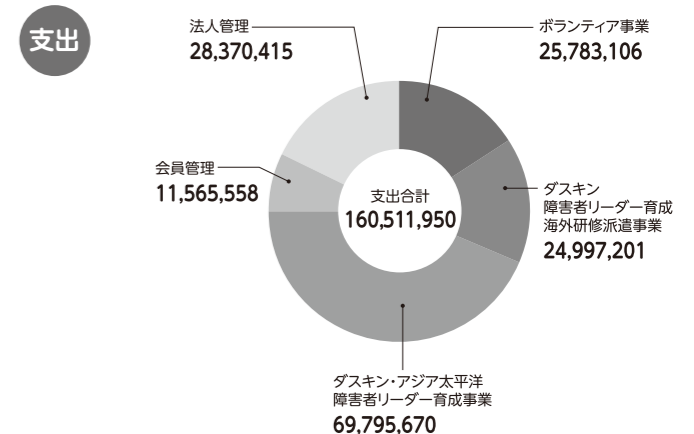
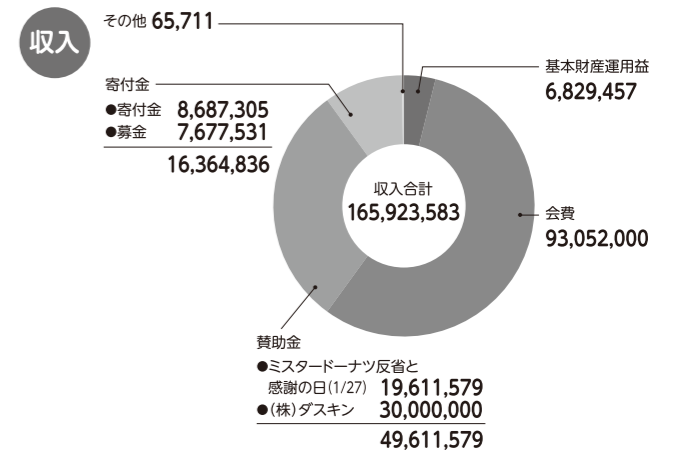
科目	合計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	6,829,457
基本財産受取利息	
受取会費計	142,663,579
受取寄付金計	16,364,836
雑収益計	65,711
経常収益計	165,923,583
経常費用計	160,511,950
当期経常増減額	5,411,633
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	7,800,000
(2) 経常外費用	
経常外費用計	37,170
当期経常外増減額	7,762,830
当期一般正味財産増減額	13,174,463
一般正味財産期首残高	51,957,199
一般正味財産期末残高	65,131,662
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	1,855,000,000
指定正味財産期末残高	1,855,000,000
III 正味財産期末残高	1,920,131,662

	第34期 2015.3.31	第35期 2016.3.31	第36期 2017.3.31
資産の部			
流動資産	57,530	52,284	55,220
固定資産	1,872,392	1,870,252	1,882,260
資産合計	1,929,923	1,922,537	1,937,481
負債の部			
流動負債	2,268	1,987	2,612
固定負債	12,562	13,592	14,736
負債合計	14,830	15,579	17,349
正味財産の部			
指定正味財産	1,855,000	1,855,000	1,855,000
一般正味財産	60,093	51,957	65,131
正味財産合計	1,915,093	1,906,957	1,920,131
負債及び正味財産合計	1,929,923	1,922,537	1,937,481

資産の部	
【流動資産】	
現金預金	53,737,447
貯蔵品	1,312,926
仮払金	53,549
前払金	116,514
未収金	0
流動資産合計	55,220,436
【固定資産】	
基本財産	1,855,000,000
その他の固定資産	27,260,796
固定資産合計	1,882,260,796
資産合計	1,937,481,232
負債の部	
【流動負債】	
未払金	1,842,360
前受会費	349,500
預り金	420,902
流動負債合計	2,612,762
【固定負債】	
退職金給与引当金	14,736,808
固定負債合計	14,736,808
負債合計	17,349,570
正味財産	1,937,481,232

*記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

収入・支出 単位:円



会員数の推移 平成29年3月31日現在 単位:人 (件)

	第34期 2015.3.31	第35期 2016.3.31	第36期 2017.3.31
法人会員	221	223	223
特定法人会員	455	456	472
エルダー会員	535	535	544
働きさん会員	1,755	1,739	1,719
個人会員A	1,420	1,382	1,539
個人会員B	2,924	2,964	3,061
個人会員C	6,233	6,829	7,034
小計	13,543	14,128	14,592
×イト会員	157	92	95
(累計)	173,832	173,924	174,019
合計会員数	13,700	14,220	14,687
(累計)	187,375	188,052	188,611

第36期(2016年)は、研修派遣生7名を世界各国へ派遣しました。

- 第1期 1981年**
 - 3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の記者発表会が行われる。
 - 11月26日:厚生省より「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。
- 第2期 1982年**
 - 1月7日:第1期留学生10名をアメリカへ派遣。
 - 1月27日:ミスタードーナツ1日チャリティが行われる。



- 研究開発助成事業として4機関が決定。
- 第2期留学生10名を派遣。

- 第3期 1983年** ●留学生9名を派遣。
- 第4期 1984年** ●留学生9名を派遣。
 - 「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。



- 第5期 1985年** ●留学生9名を派遣。
- 第6期 1986年** ●留学生8名を派遣。
 - 研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスタードーナツと日本製粉が協力し開発する。
- 第7期 1987年** ●留学生8名を派遣。
- 第8期 1988年** ●留学生7名を派遣。
- 第9期 1989年** ●留学生7名を派遣。
- 第10期 1990年** ●留学生10名を派遣。

- 第11期 1991年**
 - 障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスタードーナツよりダスキンに、米国留学が海外研修に変わる。団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。
 - 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。
 - 第1回「愛の輪のつどい」が開催される。

- 第12期 1992年**
 - ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣に4チーム98名(介助者を含む)を派遣。

知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚・聴覚障がい・肢体不自由チームはアメリカで約2週間の研修を行う。



- 第13期 1993年**
 - ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣に6チーム97名(介助者含)を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やし、てんかんのチームを編成、アメリカに2週間、障がい者の「就労」をテーマに学ぶ。

- 第14期 1994年**
 - 全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。
 - ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、個人長期研修派遣生8名を派遣。また知的障害者グループ短期研修生5名をアメリカに派遣。

- 第15期 1995年**
 - 愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。
 - 研修派遣生10名を派遣。

- 第16期 1996年** ●研修派遣生10名を派遣。
- 第17期 1997年** ●研修派遣生9名を派遣。

- 第18期 1998年** ●研修派遣生7名を派遣。
 - 第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。

- 第19期 1999年** ●研修派遣生9名を派遣。
 - ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。



- 第20期 2000年** ●研修派遣生8名を派遣。
- 第21期 2001年** ●研修派遣生9名を派遣。
- 第22期 2002年** ●研修派遣生9名を派遣。

- 第23期 2003年**
 - 財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。
 - 研修派遣生11名(2グループ7名、個人研修生4名)を派遣。

- 第24期 2004年**
 - 研修派遣生12名(2グループ8名、個人研修生4名)を派遣。

- 第25期 2005年**
 - 11月16日:ヒルトン東京において「財団設立25周年記念式典」が開催される。
 - 研修派遣生11名(1グループ6名、個人研修生5名)を派遣。

- 第26期 2006年**
 - 研修派遣生12名(3グループ9名、個人研修生3名)を派遣。

- 第27期 2007年**
 - 研修派遣生12名(2グループ8名、個人研修生4名)を派遣。

- 第28期 2008年**
 - 研修派遣生30名(4グループ17名、個人研修生5名、新設したジュニアリーダー育成グループ8名)を派遣。
 - 愛の輪地域実行委員会を全国11地域に編成。

- 第29期 2009年**
 - 研修派遣生16名(2グループ8名、個人研修生8名)を派遣。

- 第30期 2010年**
 - 研修派遣生27名(4グループ21名、個人研修生6名)を派遣。
 - バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーで、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに対し、「愛の輪賞」を贈呈。
 - 12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がい者のための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。

- 第31期 2011年**
 - 研修派遣生19名(2グループ13名、個人研修生6名)を派遣。
 - 2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。

- 第32期 2012年**
 - 研修派遣生13名(2グループ10名、個人研修生3名)を派遣。

- 第33期 2013年**
 - 研修派遣生9名(1グループ5名、個人研修生4名)を派遣。
 - ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダルと銅メダルを獲得した、第30期研修派遣生 木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

- 第34期 2014年**
 - マサチューセッツ州立大学ボストン校の協力で「スタディ・イン・アメリカ研修」が加わる。
 - 研修派遣生14名(2グループ10名、個人研修生1名、スタディ・イン・アメリカ研修生3名)を派遣。

- 第35期 2015年**
 - 研修派遣生5名(スタディ・イン・アメリカ研修生2名、個人研修生3名)を派遣。アジア第17期生6名(ネパール、ラオス、ソロモン、モンゴル、カンボジア、パキスタン)を招へい。

- 第36期 2016年**
 - 財団設立35周年、秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下ご臨席のもと、海外研修派遣生の成果発表会を開催。
 - 研修派遣生(1グループ4名、個人研修生3名)を派遣。

■役員

(任期:平成29年6月19日~平成31年6月開催予定評議員会)

理事	理事長	山村 輝治	(株)ダスキン 代表取締役社長
	専務理事	里岡 和也	(株)ダスキン ミスタードーナツカレッジ学長
	常務理事	山本 典芳	(公財)ダスキン愛の輪基金 事務局長
	理事	宮城 まり子	(学)ねむの木学園 理事長
	理事	寺岡 豊彦	ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会 理事長
	理事	松友 了	社会福祉士事務所・早稲田すばい 社会福祉士
	理事	五十嵐 紀子	(社福)光友会 理事長・総合施設長
	理事	松井 亮輔	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 副会長
	理事	關 宏之	(社福)日本ライトハウス 常務理事
	理事	宮原 英基	ミスタードーナツフランチャイズ共同体 理事長
	理事	崎野 圭子	ダスキン生産協栄会 理事長
	理事	大熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授
理事	田門 浩	都民総合法律事務所 弁護士	

(任期:平成27年6月17日~平成31年6月開催予定評議員会)

評議員	評議員	青柳 紀	(株)ヨコハマフーズ 代表取締役社長
	評議員	東 正樹	ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会 理事長
	評議員	君塚 葵	全国肢体不自由児施設運営協議会 前会長
	評議員	下 二郎	ダスキン労働組合 委員長
	評議員	須田 隆	興隆産業(株) 代表取締役
	評議員	田中 義隆	ダスキン全国ケアサービス加盟店会 理事長
	評議員	中尾 知也	ダスキンレントオールコミュニティ会 理事長
	評議員	花島 弘	(社福)日本点字図書館 理事
評議員	福母 淳治	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 常務理事	

(任期:平成27年6月17日~平成31年6月開催予定評議員会)

監事	監事	鶴見 明久	(株)ダスキン 専務取締役
----	----	-------	---------------

(任期:平成29年6月19日~平成31年6月開催予定評議員会)

顧問	顧問	伊東 英幸	(株)ダスキン 元代表取締役会長
----	----	-------	------------------

■ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会 委員

(任期:平成29年4月1日~平成31年3月31日)

青松 利明	筑波大学付属視覚特別支援学校 教諭	尾上 浩二	認定NPO法人DPI日本会議 副議長
青柳 まゆみ	愛知教育大学 障害児教育講座 准教授	小林 洋子	筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助教
金塚 たかし	特定非営利活動法人 大阪精神障害者就労支援ネットワーク 統括所長	山下 幸子	淑徳大学 総合福祉学部 教授
長瀬 修	立命館大学生存学研究センター 教授	福田 暁子	全国盲ろう者協会 評議員・国際協力推進委員 世界盲ろう者連盟 事務局長

■ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会 委員

(任期:平成29年4月1日~平成31年3月31日)

寺島 彰	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 参与	嶋本 恭規	(一財)全日本ろうあ連盟 理事
山口 和彦	特定非営利活動法人 居宅移動支援事業所 TOMO 事務局長	稲 淳子	精神保健福祉士/社会福祉士
河村 宏	特定非営利活動法人 支援技術開発機構 副理事長	野村 美佐子	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 参与
高嶺 豊	特定非営利活動法人 エンパワーメント沖縄 理事長	村瀬 道雄	(社福)光友会
小倉 國夫	アジア障害者支援プロジェクト 事務局長		

■愛の輪運動地域実行委員会 委員長

(任期:平成28年4月1日~平成30年3月31日)

北海道地域	吉川 哲也	(株)ダスキンフロンティア 代表取締役
東北地域	稲葉 廣直	(株)アイウェイ イナバ 代表取締役
東京地域	鯨井 敦	(株)ダスキン城北 代表取締役
北関東地域	寺澤 義孝	(株)ダスキン西蒲原 代表取締役社長
南関東地域	牧野 保	(有)ダスキン茂原 代表取締役社長
北陸地域	和泉 晋吾	(株)ダスキン高岡 代表取締役社長
北海道地域	小野 英昭	タイホウフーズ(株) 代表取締役社長
近畿地域	山形 淳一郎	(有)シーズ 代表取締役
中国地域	橋詰 正紀	ダスキン愛の店廿日市(株) 代表取締役
四国地域	西岡 正人	(有)ダスキン高知 代表取締役
九州地域	平野 明	(資)ダスキン天草 代表社員

めい あい へるぷ ゆうーダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。終生願い続けてきた「祈りの経営」という独自の経営理念と、その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

翌年の1981年、国連が提唱した国際障害者年のテーマ、障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、創業10周年を迎えたミスタードーナツが、お世話になった地域の皆さまへのお礼返しとして、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、2012年2月、内閣府の公益認定を受け「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生まれ変わりました。

「めい あい へるぷ ゆう？（何かお手伝いすることはありますか？）」、私たちにできることはほんの小さいことかもしれませんが、誰かのために、何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願い、小さなボランティアの輪が広がって、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう
平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、
心身に障害を有する人びとと、すべてを連帯する。

私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、
広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求め、
障害者のニーズを理解し、
ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。私たちは、
すべての人間が深い絆で結ばれ、
社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 <http://www.ainowa.jp>